

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告

2024.5

学校法人成城学園

幼保連携型認定こども園 日吉幼稚園

1、本園の教育目標

学園理念である「社会を生き抜く体力のある子ども」を標榜し、自発的な活動から生まれる体験・経験を通して培われていく子どもの自立性・主体性を育むことを目標とする

また、以下の6項目を本園での“目指すべき子ども像”として園生活の中で育ていく

(1) 自分で考え、自分で行動する子ども (2) 人や社会に積極的に関わる子ども (3) 思いやりや優しい心を持つ子ども (4) 命を大切にする子ども (5) 自然を大切に身近に感じる子ども (6) 浪費をしないで {もったいない} の心を持つ子ども

2、本年度の重点的な目標・計画

- ①教育課程に基づき、それぞれの年齢に応じた保育計画を作成し、実践する。
- ②ICTの活用を模索する
- ③0～2歳の子育て支援
- ④働き方改革
- ⑤職階制の検討・模索
- ⑥多様な人材の活用

3. 評価項目の達成及び取り組み状況 (令和5年度の振り返り)

日 吉 幼 稚 園		
	課 題	具体的な取り組み方法
1	教育課程に基づき、それぞれの年齢に応じた保育計画を作成し、実践する。	教育課程を活用し、個々の月齢による育ちを理解する。 日々の保育にねらいをもって取り組み、また自分自身の保育を振り返り、保育計画に反映し、実践する。
	【評価】 教育課程に挙げられている項目について、月案会議で振り返るという基本をもっと徹底していくことが必要。 月齢差への配慮をしながら個別園児のふりかえりができつつある。 学年ごとの発達的な違いが明確に表記できるようなねらいの書き方を今後も充実させたい	
2	ICTの活用を模索する	一人に1台ずつPCをあてがわれたことで、職員間の情報共有ができ、業務の合理化が進んでいる。 さらに保育業務を見直し時間短縮ができるようにPCを上手く使っていく。
	【評価】 共通フォルダーの活用が定着し、保育や園児の情報の共有化が進み、教育課程等の公式書類のデジタル化についても行い始めた。 保育者により活用の差が出ているかどうかの検証や、今後の活用の向上に関する検討していく必要がある。	

3	0～2歳の子育て支援	<p>「よちよち」と「てくてく」はまだ広く周知されていないことで利用者が少ない。 今後、もっと活用してもらうために、利用者の意見も参考にし、子育てが楽しくなるような広場を考えていく。 また、次元の異なる少子化対策として「こども誰でも通園制度」が令和6年度から始まる予定となっているが、これを視野に入れた未就園児事業の模索も必要となる。</p>
<p>【評価】 「こども誰でも通園制度」の導入ができ令和6年度からスタートしている。 令和7年度は子育て支援15事業に位置づけられ、令和8年度に本格実施の見込みとされているため、今年度事業は今年度限りの制度となる見込みで、8年度に向けて暫時変更されていく見込みである。 0.1.2歳児対象の「すくすく広場」「ぴいちゃん広場」は少しずつ利用が増えてきている。 担当の富村がイベント企画し、知名度を上げる努力をしている。</p>		
4	働き方改革	<p>植栽の水やりやトイレの清掃などを業者に委託し、教職員の労務量を減らすことで、特に保育後から退勤までの時間を保育内にかかわる作業に集中できるようにし、就業時間までに仕事を終えるようにする。 また、仕事内容を吟味しながら効率化を図る。</p>
<p>【評価】 通園バス乗務・ホームクラス等長時間保育担当・業者による窓清掃とトイレ清掃など分業が進み、業務の縮小にはなっている。休憩時間については休憩の取り方に関する実態調査を行おうとしている。</p>		
5	職階制の検討・模索	<p>ミドルリーダーの役割の明確化 キャリアチャートの作成 Team活動と全体のガバナンスをつなぐ</p>
<p>【評価】 学年主任は配置するが副主任(サブリーダー)は特に業務が特定されないため廃止し、専門リーダーとして具体的な業務を設定し、それに対する手当と評価をしていくように変更すべく令和5年度から変更した。 学年やフリー毎のチームはリーダーの指示と掌握のもとで活動できている。 またリーダー会議による保育や働き方の検討を進めるようになってきている。</p>		
6	多様な人材の活用	<p>YOLO ジャパンとBananaEnglishより現在はオーストラリア、イタリア、フランス、ネパールなど多様な外国人のこどもへの関わりが定着してきている。 日本語以外で触れ合う人がいることの多様性を更に工夫していくことを課題としながら、ひとりひとりの興味関心が具体化された活動が広がり、更なる安全への配慮が高まるように取り組んでいく</p>
<p>【評価】 定住者(配偶者が日本人など)、留学生、ワーキングホリデーなどビザの種類によって、在日期間や就労時間の限定があるため、留学生やワーキングホリデーの就労者は一定期間で入れ替わることを前提に採用している。 子どもにとっては多様な外国の人と触れ合う経験になってよいと思われる。 今後定住者ビザが1名、日吉幼稚園に就職する就労ビザが1名を継続的な就労者として採用し、入れ替わる留学生等へのサポートを担当するような形にしていく。 子どもたちは外国の人への緊張がなくなり自然な関係で過ごしている。 YOLO JAPAN から6名 BananaEnglish から3名がワークシェアしながら勤務している。 主な業務は、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 子どもと遊ぶ ② 子どもの安全確保 ③ 年少4月5月のクラスフォロー ④ 掃除・修理などの営繕業務など 		

4、今後取り組むべき課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育課程に基づき、それぞれの年齢に応じた保育計画を作成し、実践する。	PDCA サイクルを意識し、実践したことや子どもの育ちを皆で共有し、子ども理解を努めながら次の保育や子どもへのかかわりにつなげていく。
2	働き方改革	就業時間にはきちんと退勤できるように教員への意識づけをするとともに、修行時間までに収められるように仕事内容の改善をする。 また休憩時間を確保するために、まず一人ひとりの仕事の現状を把握し、担任以外の教員で交代できるように工夫する。
3	0～2歳の子育て支援	子育て広場のアプローチ方法を引き続き模索する。 イベントや室内の手作り玩具を増やし、利用しやすいように工夫していく。
4	多様な人材の活用	外国人スタッフが増えたので、外国人向けの園の理念や教育方針・子どもへのかかわりかたなどの研修を行い、保育につなげていく。
5	寄付行為の変更	私学法改正による寄付行為の変更が令和7年4月より施行される役員数の変更など法改正に沿った改定の取り組みを進めていく。
6	長時間保育に対する備え	女性就労率の増加にともない2.3号認定だけでなく、新2号認定の受け皿拡大策(ホームクラス充実)について検討していく。

5、学校関係者評価

	項目	具体的な内容
1	教育課程に基づき、それぞれの年齢に応じた保育計画を作成し実践する	教育課程に基づきながら、一人一人の保育教諭が日々の実践を振り返りより良い保育実践を目指して努力されています。 継続的に実践される中で、保育教諭の資質向上と保育の質向上を目指していただきたい。
2	ICTの活用	パソコンの一人一台の導入により情報共有ができ時間短縮ができていることは評価できる。 保育者によって活用に差がないか？また、ICTの活用によって起こる弊害はないのか？検証していただきたい。
3	0～2歳児の子育て支援	現代社会に対応した支援や実践、継続して取り組んでいかれることを期待します。
4	働き方改革	多様な職種人材活用による働き方改革は評価する。 休憩時間の取り方(実態)を是非調査していただきたい
5	職階制の検討・模索	骨子をはっきりとし順調に進められていると感じます 「副主任の業務が特定されていなかったため廃止にした」とありますが、そのことによってどのように向上したのか？検討いただきたい
6	多様な人材の活用	外国人との触れ合いは子どもたちにとって多様性が広がる交流につながっていると思います。

6、財務評価

令和5年度の新入園児は例年並みであったが、今後は世の中全体が少子化進行により園児減が進んでいくことが予測され収入減・支出増のスパイラルが始まることが予測される。
教職員数は急激に減ることはないため人件費率の上昇は容易に予測されることである。
また人事院勧告と保育業種の処遇改善による給与上昇、加えて物価上昇が食材・教材など、多方面の運営経費が値上げの方向で進んでいる。
世の中の人件費や諸経費が膨らむ傾向の中、今までは法人として値上げを抑制してきたが、いよいよ令和6年度中に特定保育料・光熱水費・給食食材費・通園バス利用料・教材費等の値上げを検討し実施していく必要が出てきた。
また、2011年竣工のおひさま館は防水工事の時期にきている。
経費の嵩む、通園バス買い替え・空調設備更新・厨房機器更新・外壁塗装更新などについて、計画的に積立をしておく必要があるため基本金の蓄積も確かなものにしていきたい。

